

IKE・SUNPARK

としまみどりの防災公園（イケ・サンパーク） ～官民連携によるフェーズフリーな公園整備と人、モノ、公園、まちを育てる仕組みづくり～



出典 UR PRESS vol.63

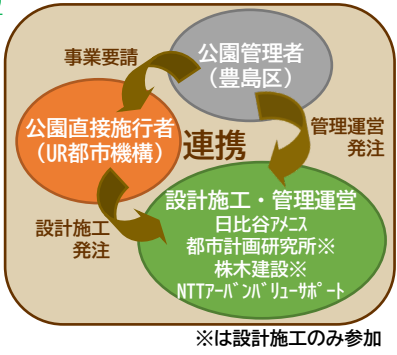
出典 UR PRESS vol.63

取組の位置



取組内容

●P-PFIや設計施工管理運営一体型発注の導入によるグリーンインフラの価値増進
P-PFIを導入し、公募対象公園施設(カフェ等)の他、特定公園施設(ウッドデッキ等)の整備により、公園の価値を高めるとともに、「**設計施工管理運営一体型発注**」方式を採用し、官民が連携した新たな事業体制を構築することで、民の柔軟な提案を引き出し、平常時と非常時の2つのフェーズを踏まえた、将来の管理運営を見据えた設計施工を可能とした。



●地域と連携した取組みによる人、モノ、公園、まちを育てる仕組みづくり
官民主催 **ファーマーズマーケット**、指定管理者による**利用者参加型コミュニティガーデン活動**、**KOTO-PORT**(可動式小型店舗)の設置を実施。公園を舞台に、人やモノの新たな繋がりや活動が生まれ、公園や地域の活性化に繋がる取組みを実施した。



KOTO-PORT



コミュニティガーデン

●4公園の回遊性確保による利用促進と地域の活性化
電気バス「**IKEBUS**」の運行により4つの公園の回遊性を確保することで、各公園の利用及び活動連携の促進と、新たな交流と賑わいを創出し、文化を発信する、地域の活性化を推進した。

当公園内3箇所に設置したWi-Fiパケットセンサーにより人流データを収集し、滞在者数、滞在時間、リピート率などを検証。

地域課題・目的

【**地域課題**】としまみどりの防災公園が位置する造幣局地区は、池袋駅から約1km、従前は造幣局東京支局が立地していた。南と東側には木造密集市街地が広がることから、古くから公園化に関する検討や要望活動が継続的に行われており、豊島区は、造幣局の移転を契機に、大規模土地利用転換を図り、災害対策本部が置かれる区庁舎と、特定緊急輸送街路となる春日通の中間に位置する当地区に、一時避難場所及び救援物資集積拠点等の防災拠点となる防災公園を整備する方針を定めた。一方で、豊島区は、23区で唯一「消滅可能性都市」の指摘を受けたことを契機に、持続発展する都市「国際アート・カルチャー都市」づくりに着手し、当地区を含む池袋周辺地域においても、まちのイメージアップや子どもと女性にやさしいまちづくりが課題であることから、当公園を含む池袋駅周辺の4公園を核にまちづくりを進める方針を定めた。

【**目的**】防災拠点及びまちづくりの核として、平常時と災害時の2つのフェーズにおいて有効となる、緑空間の持つ多機能性を最大限に引き出す公園整備と、人、モノ、公園、まちを育てる持続可能な仕組みづくりにより、地域の賑わいと防災力を高め、魅力あふれるまちづくりに寄与することを目的とした。

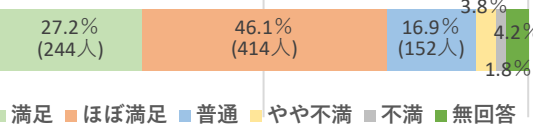
取組効果

●平常時と災害時ともに機能する公園施設の整備(表-1)

公園施設・仕様		平常時の機能	災害時の機能
芝生広場 (約6,600㎡)	・ノシバ ・耐圧基盤 (ヘリポート部)	・区内最大の芝生広場 ・憩いの場・ ・地表面温度の低下・雨水流出抑制	・一時避難場所(約2,500人) ・ヘリポート、救援物資集積
こもれびの森 エリア	・シラカシ ・実のなる木	・緑陰の確保 ・散策ルート・鳥の来訪	・木造密集市街地からの延焼を防止する防火樹林帯
プロムナード (約170m)	・透水性舗装 ・耐圧基盤 ・イチヨウ並木	・イチヨウ並木の景観、緑陰 ・「IKEBUS」通行ルート ・雨水流出抑制	・大型車両通行 ・救援物資搬出入
①管理棟 ②倉庫棟	・屋上緑化 (計57㎡)	①管理事務所、カフェ ②倉庫	①非常用電源 ②備蓄倉庫、防災行政無線

●地域の環境改善

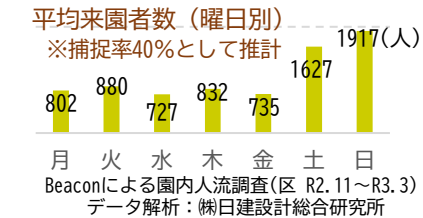
公園が開園して良かった点は「避難場所ができて安心」「憩える場所ができた」「緑が増えた」などの声が多く、一時避難場所の機能については83.8%が期待すると回答。総合的な満足度では「満足」と「ほぼ満足」を合わせた割合が73.3%となった。



としまみどりの防災公園近隣住民アンケート調査(区 R3.3~4)
データ解析：(株)日建設計総合研究所

●来園者による地域活性化

毎日平均1,000名、土日には平均1,700名と多くの人々が来園しており、約半数が区外からという傾向がみられた。公園の開園と取組みにより人流が活発化し、地域の活性化に繋がっていると言える。



工夫した点

計画

・まちづくりの核となる池袋駅周辺4公園の中で、**区内最大面積の公園**という特性を踏まえ、地域の人々や来街者で賑わう日常的な憩いの場となるよう、**区内最大の芝生広場**を計画。

・木造密集市街地側の公園縁辺部に、樹木により延焼を防止する**防火樹林帯**を計画するとともに、**発災時に公園内へ避難しやすい**ように複数の出入口を計画。

・造幣局時代の既存樹木の**保存及び移植**、巣鴨刑務所（造幣局が建設される前に立地）の石垣排水口のモニュメント化など、**歴史を継承**する取り組みを実施。

設計整備

・P-PFIによる特定公園施設として、芝生広場と園内カフェの**ボーダレスな利用**を可能とするウッドデッキを整備。公園内はWi-Fi回線を設置することで**テレワーク**にも対応。

・ハリポットの計画箇所に**芝生耐圧基盤材**を活用することにより、芝生広場の面積を維持したままで、**耐圧性、雨水流出抑制**の機能を確保。

・防火樹林帯には耐火力のあるシラカシを列植したうえで、季節の彩りのある、イロハモミジやサクラ(既存樹の移植)、実がなり野鳥を呼ぶ、ザクロ、ヒメリンゴなどを配植し、散策エリアとして楽しめる植栽空間を設計。

・ファーマーズマーケット、KOTO-PORTでは、地域活性化や人材育成の仕組みとして、地元の店舗や個人の出店を募り、**起業や新商品開発などの新たな取り組みの場**を提供。

・コミュニティガーデンでは、**園内カフェの生ゴミをコンポスト**で堆肥化して活用。収穫されたハーブをカフェ日替わりメニューで味わえるイベントを開催。参加者の方々が活動を通して繋がりを深めたり、**親子で食育**を楽しめる場を提供。

・維持管理、利用促進、普及促進の3つのグループで活動するボランティアの会「**イケサン倶楽部**」を設置。芝生管理ではキャラクター(しばふちゃん)活用やブランケット貸出しにより**利用者の意識改革、価値観醸成**を促進。

管理運営

今後期待される効果

- 4公園の特色を活かした各公園運営団体(エリアマネジメント組織)の設立による連携した取り組み、民間企業による4公園を活用したイベントの活発化など、今後、池袋のまち全体を舞台とした取り組みが増加し、**池袋駅周辺地域の発展に寄与**することが期待される。
- コロナ後の**地域の自主活動(防災訓練、地域のイベント等)**の活発化により、2つのフェーズにおける機能を備えた公園がより広く認知され、**地域の人々の防災意識の向上と災害時の円滑な運用**に繋がることが期待される。
- ファーマーズマーケットやKOTO-PORTが、地域の生活の一部として浸透し、より多くの**新たな人材、取り組みが生まれる連鎖の場所**となることが期待される。
- 地域の賑わいと防災機能の強化、生活環境の改善などが広く認知され、誰もが主役になれるまちとして、人口の増加、当地区**周辺地価の上昇に寄与**することが期待される。

今後の展望

- アートカルチャー拠点間の歩行者ネットワークの整備により、**4つの公園の緑の連続性を強化**して緑空間の機能を更に引き出し、一層の生活環境及び都市景観の改善、地域の回遊性向上を図る。
- 4つの公園のみならず、グリーン大通り等の線的、地域全体での面的な官民連携の取り組みを推進し、結果の検証を積み重ねることにより、**持続可能なまち運営の仕組み**の構築を目指す。
- 豊島区は、SDGsへの優れた取組を行う自治体として「**SDGs未来都市**」に選定され、「**自治体SDGsモデル事業**」として「池袋駅周辺4公園を核にしたまちづくり」「暮らしの中にある小さな公園の活用」が選定されている。モデル事業の第一弾として開始した、ファーマーズマーケットを継続すると共に、公園を中心とした取り組みを推進することで、賑わいによる収益(公園の活用による使用料等)が公園等みどりの環境整備に還元され、2030年の**SDGs目標達成**に寄与することを目指す。



こもれびの森(防火樹林帯)



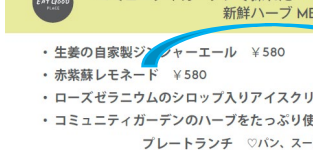
広場とカフェを繋ぐウッドデッキ



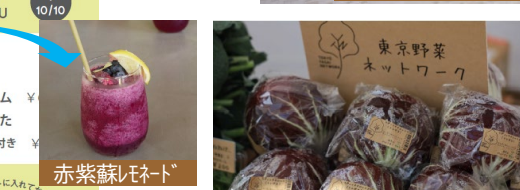
排水口のモニュメント



既存樹木の保存



赤紫蘇ばネード



ファーマーズマーケット



カフェの生ゴミは堆肥化して有効利用



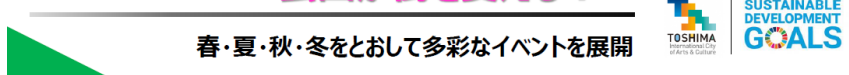
ブランケット



しばふちゃん

4つの公園がまちを変える

公園が街を変える！



春・夏・秋・冬をとおして多彩なイベントを展開



豊島区より

SDGsの視点に立って、全事業を推進し、「国際アート・カルチャー都市」の実現に向けて着実に前進していきます。



豊島区(令和3年度 未来戦略創出会議資料より)